

市民の

# 安心・安全、くらしを守る論戦に全力



代表質問する  
かしば優美

## 市長は戦争法案への 明確な答弁を回避

戦争法案(安保法制)に関して市長に質問。①同法案が憲法違反であること、②安倍政権が最後まで国民の理解を得ることができなかったこと、③統合幕僚長が昨年12月に「来年夏までには成立させる」と米軍側に約束していた、自衛隊の暴走の3点について見解を求めました。市長は、「国の防衛上の方針への是非については、一地方自治体の長が判断すべきものではない」と明確な答弁を避けました。

## 黒字分を活用して 国保税の引き下げを要求

医療費伸び率の鈍化等により、2014年度国民健康保険会計は4億円を超える黒字を計上。この財源を活用して、13年度国保税の値上げ分(総額2億9千万円)を2016年度に引き下げるべきと主張しました。これに対し市長は、「一般会計から(国保会計へ)繰り入れていること、高齢化の進展等による医療費の増加や2018年度からの「国保運営の都道府県化」など不透明要因が多く、保険税の引き下げは難しい」と答弁しました。

## 11億円超の「積立金」を使い 介護保険料の軽減を

介護保険(事業)会計には2014年度決算で11億円を超える「基金」積立金があります。介護サービスを提供する在宅・施設整備計画が予定より遅れたことにより生じたもので、党議員団はこの「基金」の一部を取り崩して低所得者層の保険料を軽減すべきと質しました。これに対し当局は、「2018年度以降増加が予想される保険料を極力抑えるために基金を使う予定をしており、現保険料軽減は考えていない」と答弁しました。

## 2014年度決算不同意

# 市民生活おびやかし、 社会的弱者に 重い負担

14年度決算では、個人市民税が前年対比で減少する一方、株への配当が増加するなどアベノミクスによる富裕層優遇、市民所得減らしの政策があらわになりました。暮らしが大変なとき、市が市民生活を守る防波堤の役割を果たしたのかどうか問われました。

### 以下の理由で一般会計決算認定に不同意

- ①老人・母子家庭等に対する福祉医療助成を縮減し、1,700万円の負担を押し付けたこと。
- ②国民健康保険会計の黒字分を、引き下げに使わず一般会計に繰り戻したこと。
- ③自衛隊適齢者名簿5,012人分を、本人に知らせず電子媒体によって自衛隊に提供したこと。
- ④殺し殺される戦争参加に性格が変わった自衛隊に、44名の中学生がトライやるウィークで体験を実施したこと。
- ⑤学力の一部といいながら、全国学力テスト中心の助言・指導が学校に対して行われていること。

### 以下の理由で後期高齢者医療事業特別会計決算に不同意

- ①伊丹市では保険料を前年度比2,370円増額し、平均的受給者で年額91,067円としたこと。

12月議会は12/4~12/24開催

**日本共産党**  
伊丹市議会議員団

発行 日本共産党伊丹市議会議員団 伊丹市千僧1丁目1番地  
議員団控室 TEL 784-8114(直通)  
メール hyo.itamijcp@nifty.com



上原ひでき  
090-3355-8251



ひさ村真知子  
090-4491-7521



かしば優美  
090-3355-8255



服部よしひろ  
090-9044-0925

- 質問の全文は「伊丹市議団」のホームページでご覧になることができます。
- 中継録画は「伊丹市議会」のホームページでご覧になることができます。



伊丹市議団 検索